

2012 年度

自治体学会総会 議事録

1 開会あいさつ

2 議長選出

3 運営委員会審査結果

4 議案審議

第1号議案 2011年度事業報告

第2号議案 2011年度決算報告

第3号議案 2012年度事業計画（案）

第4号議案 2012年度収支予算（案）

第5号議案 役員改選

5 報告事項

6 その他

2012年8月31日（金）8時30分～9時45分

広島国際会議場 大会議室 タリア②

○司会 皆さん、おはようございます。定刻の8時30分になりましたので、2012年度の総会を開催したいと思います。

開会にあたりまして、代表運営委員の進士代表からごあいさつをお願いいたします。

○進士代表 皆さん、おはようございます。

東京からお集まりいただきありがとうございます。

進行では、簡単なあいさつということなのでさせていただきたいのですが、昨日、交流会議で中島さんが格調の高いあいさつをしたので、あれで大体尽きると思います。

この国際会議場の目の前に噴水があります。あれに向かって左側に行くと元安川という川があります。あそこにかかっている橋はイサム・ノグチの設計です。丹下さんがこの公園の設計者ですが、戦後間もなくコンペティションがあって、イサム・ノグチもメンバーに入れて、慰霊塔のこういうのが本当はイサム・ノグチの設計のはずだったのです。それが、イサム・ノグチはアメリカ人との混血ですから、敵軍の血が入っているやつのは受けないと広島が反対運動を起こして、結局丹下さんの設計になりました。今、私の言ったその元安川を渡った橋はイサム・ノグチの設計で、欄干もおもしろいのでぜひ見てほしいと思います。

その1通りか、2通り分行ったところに、安くておいしいおにぎり屋がありました。今日のお昼のためにそれを最初に御紹介しておこうと思いました。

私は代表運営委員の役割を、今回で終わらせていただきますが、余力になれなかったのですが、今回でやっと皆さんの御協力で学会誌が変わったりして、やっと会員が、(ちょうど中島さんのあいさつの最後だけ訂正しますと、ずっと低落ではなくて)ちょっとだけ戻しました、会員増員に少し転じました。この勢いをこれからも伸ばしてほしいと思っています。それは、自治体学会という組織が存続する価値が大きいと思っているからです。

今の政治状況を見ていると、やっぱり自治体が本当にしっかりしなければいけない。自治体がしっかりするためには、そこの主要メンバーである自治体職員自身がしっかりしなければいけないということだと思のです。だから、それには昨日のようなお話、自治体に命をかけるような高い志と、もう一方で、現実的に実際的なことも考えなくてははいけない。この理想と現実を両方踏まえなければいけないと思ったのです。この公園を丁寧に見て、つくづくそう思いました。

私は、この公園には10回以上来ていますが、いつも、時間がないので*全体像*だけ見て帰っていました。今回は丁寧に見ましたら、公園じゅうに慰霊碑がたくさんあるので。公園以外にも広島にはたくさんありますが、かつて大勢の方が亡くなったわけですから。

非常に整然とした原爆ドームをランドマークにしてずっとできたというのですが、非常に骨格がしっかりしている。これは丹下健三のデザインのセンスだと思います。多分それだけだったら、本当の公園にはならないと思います。公園担当者とも会いましたが、中にたくさんの慰霊碑があるのです。いろいろな団体の、学校の先生方の。

これを見て、やはりこれだからここは聖地だと思うのです。平和記念公園というのになつたのは、この慰霊碑があちこちにたくさんある。それぞれに人の思いがそこにあるからだと思います。

つまり、形だけのデザインをカッコいい技法でやっただけではだめで、公園担当者から言うと、ああいう慰霊碑を入れるというのは大変だそうです。都市公園法という法律もあるし、佐藤栄作の像を入れろとか、いろいろなことを言ってくる人がいっぱいいますから。それを排除するのも大変なのです。だけど、ここは柔軟に受け入れて上手にやったと思います。

だから、全体像が非常に明快でありながら、一方で、そういう心がこもったいろいろたくさんのが、全体として平和記念公園になったのだろう。つまり、理想と現実というのをやるのが、多分行政の皆さんの日常だろうと思うのです。

私はそういう意味で、今回の大会資料のあいさつに書きましたように、この広島でやることができたというのは大変大きな意味があると思います。吉川先生が来ておられますけれども、吉川さん、地元の皆さんが準備に非常に骨を折っていただきました。企画部会では、中身のある分科会を構成していただきました。今日はそれが行われるわけですが、この広島でやった意味というのは、非常に深い。

私は、記念館も何十年かぶりに丁寧に見ましたが、平和というものを改めて感じました。慰霊碑を見たときはかわいそう過ぎて見られなかった。丁寧に見ますと、今シリアなどで日常的に惨殺が行われているわけですから、ああいうのを見るとあれも人ごとではないということ以身につまされましたし、そういう意味では、最初のテーマがありますが、それとともに大きな理想である平和ということも我々は考えなければいけないと思います。

簡単でなかったもので、このぐらいにしまして、ごあいさつといたします。本当に今日は、夕方までいろいろありますし、ディスカッション的なこともあるようですから、ぜひ皆さんでこの大会をエンジョイしていただいて、来年は静岡県にお願いしましたので、静岡をまた楽しみにしていただきたいと思います。

どうもありがとうございました。(拍手)

○司会 ありがとうございました。

続きまして、議長の選出を進士代表にお願いします。

○進士代表 議長は、いかがいたしましょうか。

もし特にございませんでしたら、私どもでお願いしたいと思っております人を御紹介いたします。大竹市役所の大原豊さん、それから広島県庁の松井秀樹さん、御両名にお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。(拍手)

それでは、お二方、どうぞよろしくお願ひいたします。

○議長(大原) おはようございます。

議長団の1人に選ばれました大原と申します。現在、大竹市の副市長をやっております。

この自治体学会に入ったのは、ひもといてみると1992年のようです。それ以降、会費は

ずっと納めていますから会員だったようでございます。私としましては、一応公務員ということで、田舎の町の市ということでなかなか情報が入ってこないということの中で、この学会からの機関誌を参考にして、大変役立ったこともありました。課題は、どこの地方も大体一緒なんだというのが実感でございました。

今日こうして広島市で大会があるという中で、議長団に選ばれて大変光栄に思っております。議事がスムーズに行きますように、御協力のほどよろしくお願いいたします。
(拍手)

○議長（松井） 広島県庁総務課の松井と申します。よろしくお願いいたします。

私は1997年に自治体学会に入りまして、独身のころは自治体学会に合わせて夏休みを取って、旅行も兼ねて毎年参加していたのですが、結婚するとなかなかそういうわけに、特に金銭的に行かなくなりまして、数年に1回の参加でたまに参加するとやはりいい刺激になるなと思っておりました。

今回広島で開催されて、ある意味気楽に参加できるということで非常に喜んでおります。今日はよろしくお願いいたします。(拍手)

○議長（大原） 前半は年長の私が進行をさせていただきます。

総会の時間は9時45分までとなっておりますので、時間が限られております。円滑な会議が運営できますよう、御協力をお願いいたします。

早速ですが、議事に入りたいと思います。

まず、**運営委員会審議結果**について、進士代表運営委員から説明をお願いいたします。

○進士代表 ありがとうございます。

今日の総会の資料をごらんいただきたいと思います。

昨日運営委員会をいたしました。政策交流会議に参加していただくと思ったので、ちょっと急ぎましたが、いろいろと御承認いただきましたので報告を申し上げます。

総会資料の中の別紙、「運営委員会審議結果」です。名誉会員の御推薦をいたしましたところ、承認されております。お三人であります。3回目の名誉会員の***であります。最初の方は西尾勝先生です。ここでもう十分御承知の方ばかりだと思いますので、詳しくは申し上げます。ここにありますように、今回中島さんの方でやっている事業部会で西尾先生の話の伺う企画が進んでおりますが、至って元気でいろいろ御支援をいただいております。

お二人目は、高寄昇三さん。同じく自治体学会会員で、重鎮でもあります。

最後は高橋寛治さん、飯田で大変ユニークなまちづくりをし、全国に名をはせました。

以上3名を運営委員会で承認いたしました。御了解をいただければと思います。

○議長（大原） 運営委員審議結果に何か御質問等はございますか。

ないようですので、以上で運営委員会審議結果の報告を終了します。

続いて、議案の審議に入ります。

まず、第1号議案の「2011年度事業報告」と、第2号議案の「2011年度決算報告」につきましては、それぞれ関連がございますので一括して審議したいと思います。

○進士代表 議長すみません。1つだけ運営委員会の報告で忘れまして。

運営委員会で御発言がございましたのを御紹介しておきます。今回改選になりますけれども、通常、運営委員会ができて代表運営委員が3名選ばれ、その後、代表運営委員から部会長を指名しているわけですが、余りにも急に選ばれた代表が、急にまた部会長を選ぶというのは拙速ではないかという御意見がございましたので御紹介しておきます。

これは、今後、今日できた運営委員会での御議論だと思います。そういう意見が出ましたので、それを配慮するということです。以上です。

○議長（大原） 結局は●次期に引き継ぐ●ということでございますので、了解のほどよろしくお願いいたします。

それでは、引き続き議案審議に入ります。

「2011年度事業報告」「2011年度決算報告」につきましては、関連がございますので一括して審議したいと思います。

事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、2011年度の事業報告、1ページ目でございます。

「I 大会・総会等の開催」につきましては、お手元の資料に記載のとおり、11年度は緊急フォーラムというのを大会のほかに行いまして、大会を10月9日に法政大学で行っております。

分科会等はそこにありますとおり8分科会、シンポジウムが1本、研究発表セッションが4本、ポスターセッションはそこにありますとおりでございます。

総会につきましては、臨時総会を11年度5月に行いまして、前年度の決算報告及び11年度の事業計画・予算案の議決を行っております。

総会は10月9日、法政大学での大会と同日に行っております。

運営委員会等の開催につきましては、そこに記載のとおり、役員会、運営委員会、企画部会、編集部会、研究支援部会、学会賞委員会、事業部会、総務・活性部会でございます。

「II 活動支援事業」でございますが、地域活動支援のためのフォーラム等の開催につきましては13件、フォーラムの報告書作成支援につきましては1件、学会の趣旨に合致する名義後援が5件ございます。

続きまして、「III 事業実施概要」につきましては、お手元の資料に記載のとおりでございますが、「1 組織改革による学会の活性化」等につきましては、そこにございますように新たな部会の新設等を行っております。

「①事業部会の活動」につきましては、新たに「まちづくりの思想と情熱を学ぶ」計画等を進めたところでございます。

「②研究支援部会の活動」としましては、論文の査読の方針を決めまして、そこにございますとおり公募論文6件の査読を実施して、掲載論文1件、研究ノート2件を決定して

います。

「2 情報の発信と交流」につきましては、ニュースレターの発行を2回、新たに「かわら版」を12月に発行しております。

学会誌につきましては、『自治体学第24号』を2011年5月に発行したところでございます。その後、形態を変えまして、新学会誌『自治体学』の25-1号を3月に発行しております。

ホームページにつきましては、サーバーの変更を12年3月に移行したところでございます。

そのほか、情報の収集・提供、学会員の相互情報交流等を行っております。

「3 学会賞」につきましては、研究論文賞、論文奨励賞、田村明まちづくり賞を設けて、それぞれ表彰し、まちづくり賞の団体から記念講演などを行ったところでございます。

「4 研究支援」につきましては、研究発表セッションの応募者13名による発表が行われました。研究支援は公募論文6件について査読を実施いたしまして、掲載論文1件、研究ノート2件について決定をしております。

以上でございます。

次に、11年度の決算報告について御報告を申し上げます。

収入につきまして、まず、会費収入でございますが、個人会費の現年度分の収入1,233口、過年度分が122口、学生会員並びに総会後の後期入会者の47口を含めまして、それに団体会員を含めまして、総額1,128万3,750円でございます。

参加費収入は、5月に研究フォーラムを開催した参加収入、25回大会の参加収入、同時に情報交換会を開催いたしましてその参加収入、情報提供サービスのサービス料を含めまして243万円でございます。

次に、田村賞基金の繰入金でございますが、11年度では、副賞のメダルの作成を行うため、予算より多い44万5,095円の繰り入れとなっております。

広告収入につきましては、ニュースレターの発行が2011年度は2回、それに学会誌『自治体学』発行に伴う新たな広告収入を加えた収入額が8万円となっております。

繰越金については増減ございません。

その他の収入については、雑収入が大幅増となっております。これは大震災の影響で開催を中止いたしましたフォーラムが幾つかございまして、支援金が返金されたもので、年度を超えているために、活動支援金の増額ではなく雑収入で対応したものでございまして、15万1,770円となっております。

以上、総収入額は1,869万8,265円で、予算額に対しまして約200万の減となっております。

次に、支出につきまして御説明申し上げます。ニュースレターの発行費は、印刷と郵送費でございます。支出額は58万1,054円となります。

次に、学会誌編集費ですが、学会誌『自治体学』を発行し、全員に配布し、11年度につ

いては1回の発行をいたしております。その総額は159万3,537円でございます。

次に、学会賞推進費でございますが、委員会の会合経費とまちづくり賞副賞メダルの購入に伴う費用で65万3,032円を支出しております。

地域活動支援費につきましては、先ほどのとおり14件に139万円を支出しております。

次に、総会・研究会費は、大会運営に係る大会参加案内等の印刷、会員への送付等に使用した費用でございますが、それに会場借り上げ等の費用を含めまして212万9,064円を支出しております。「その他」の87万9,643円というのは、25回大会を単独で行いましたために、情報交換会を学会で開催した費用でございます。

事務局運営費は、会費請求その他会員への通信費等の費用でございます。

会員の名簿作成については、11年度の支出はございません。

事務局委託費は548万3,000円でございます。

ホームページ運用費は、プロバイダーの契約料、電話料、ホームページ作成・利用等の経費で11万9,894円の支出でございます。

予備費の支出はございません。

以上、支出の合計は1,464万7,669円、次年度への繰越は405万596円となります。

以上でございます。

○議長（大原） どうもありがとうございました。

審議に入る前に、事業と決算について監査が行われておりますので、監査結果を後藤監事からお願いします。

○後藤監事 資料の10ページ、自治体学会の活動は、事業面と会計面で適正に行われているというのが監査の結果でございます。

以下、蛇足ですけれども、私はこれで退任させていただきますので、所感を少し述べさせていただきます。

大学では自治体経営論の講義を行ってまいりましたが、自治体に限らず、現代社会のあらゆる組織の経営と統治のかぎとなる、要となるのが説明責任です。信頼して仕事を任せてもらったところは、仕事を任せてくれた方に対して説明責任を負います。日ごろから、信託された仕事をきちんとやっているという証拠を示せるように文書や証票を保持して、積極的に情報開示をし、説明責任を全うするというのが基本です。そしてそれがきちんとできているかどうか、評価するのが本来監査の仕事だと思います。

何か偉そうなことを言いましたが、私自身、この学会の監事を十分に果たせなかったことをここにお詫びいたしますとともに、新しい監事の方が事務局の進める学会の業務についての適正な評価を行っていただくことを願っております。

以上でございます。

○議長（大原） ありがとうございました。

御質問等ございますか。

なければ、第1号議案と第2号議案を一括して審査したいと思います。

質問等はありませんか。では、原案のとおり御了承いただける方は拍手をお願いいたします。

(賛成者拍手)

○議長(大原) ありがとうございます。多数と認められますので、原案のとおり了承されました。

続きまして、第3号議案「2012年度事業計画(案)」及び第4号議案「2012年度予算(案)」について審議をしていきたいと思っております。

事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、事業計画案と予算案につきまして御説明させていただきます。

3号議案と4号議案ということになります。11ページ、12ページをごらんください。

「Ⅰ 大会・総会等の開催」は、今回の第26回大会を広島市で開催すること。並びに、大会に合わせて総会を開催するものでございます。それから、運営委員会等の開催につきましては、役員会、運営委員会の適宜の開催、また、学会事業実施のため、企画部会、編集部会、学会賞委員会、研究支援部会、事業部会を開催するものでございます。

「Ⅱ 情報の発信と交流」につきましては、新たなスタイルにしました学会誌『自治体学』を年2回発行し、会員全員に配布するものでございます。

2つ目としては、ニュースレター「かわら版」の発行、ホームページによる情報提供と情報交流の促進を進めてまいるのでございます。

「Ⅲ 学会の活性化」でございますが、これは新年度から新たな新規事業の展開をしていくものでございまして、先ほど御紹介のありました西尾先生を講師に、「まちづくりの思想と情熱を学ぶセミナー」を開催しているものでございます。現在、既に1回目を奈良県桜井市で行い、多くの方々の参加を得ました。

それから、「学会ガバナンスの確立」は、機能的・行動的でコンパクトで合理的な学会運営を検討していくものでございます。

また、「社会への発信活動と会員活動の活性化」では、学会誌への投稿論文を促進する。学会誌の購読者拡大戦略を検討・推進していくものでございます。その中では研究支援部会の活動をしていくものでございますが、論文の書き方フォーラムというものも検討してまいりたいと思っております。

「Ⅳ 研究やまちづくり活動への支援」では、学会賞、学会誌への掲載等を進めていくものでございます。学会賞につきましては、研究論文賞、田村明まちづくり賞の募集を行い、学会賞委員会で選考する論文奨励賞と併せて広島大会で表彰をいたします。

「Ⅴ 地域活動の支援」は、従来行っておりますものを継続していくものでございます。

「Ⅵ その他の活動」は、情報の収集・提供、それから2012年度は会員名簿作成のための調査を行うものでございまして、あとは事務局の運営ということでございます。

2012年度の事業計画案につきましては、以上でございます。

それでは次に、予算案につきまして御説明いたします。13ページ14ページをごらんく

ださい。

13 ページは収入でございます。

まず1つ目が、会費収入で、個人 1,305 口、団体 114 口で精算をしており、予算額は 1,158 万円を見込んでございます。

2つ目は参加費収入で、広島大会、新規事業としてのセミナー、情報提供サービスの参加で、予算額は 263 万円を見込んでございます。

3つ目は田村賞基金繰入金で、田村賞、まちづくり賞のメダルについて作成しておきたいということで、そのために予算額 30 万円を見込んでございます。

4つ目は広告収入でございまして、昨年よりは 5 万円の減となっており、予算額 5 万円を見込んでございます。

5つ目は繰越金で、予算額は 405 万 596 円でございます。

6つ目はその他収入ということでございまして、予算額は 157 万 1,404 円ということになりまして、収入の予算総額は 2,008 万 2,000 円で、前年度に比べ 65 万 8,000 円の減となっております。

支出につきましては 14 ページをごらんください。

先ほどの事業計画で御説明させていただきましたように、事業に即した事業別予算に近いかたちに変更させていただいてございます。

特に 2012 年度から、各事業活動の中に、事業にかかわる会議開催等の会議費を組み入れ 1 つの科目として予算計上をしております。

1 の大会開催経費は、今回の広島大会の開催費と大会を企画する企画部会の経費を計上しており、予算額は 328 万円でございます。

情報出版費は、ニューズレター発行費や年報発行費などを組み替え、学会誌発行、かわら版発行、ホームページの運用、編集部会経費を計上しておりまして、予算額は 366 万円でございます。

3 の学術研究費は、田村明まちづくり賞の経費、学会賞委員会経費、新たに項目を起こした研究支援部会経費で決算額は 68 万円でございます。

4 の企画事業費は、2012 年度から新たに始めたセミナー事業の経費と、事業部会経費を計上しており、予算額は 95 万円でございます。

5 の地域活動支援費は、各地の会員が主体となって実施しているフォーラムや、報告書作成支援の費用で、予算額は 200 万円でございます。

6 の総会運営委員会費は、総会及び委員会運営の経費、運営委員会を運営する経費、その他委員会として、今年度行っております役員推薦委員会と法人化検討委員会の運営経費で、予算額は 119 万円でございます。

7 の事務局運営費は、事務局の運営に要する通信費や印刷費で、予算額は 50 万円でございます。

8 の会員名簿作成費は、会員データの確認を行う通信費で、予算額は 10 万円ござい

す。

9の事務局委託料は、学会の事務局運営を委託する費用で、予算額は548万3,000円でございます。

10の予備費は、予算額223万9,000円でございます。支出予算総額は2,008万2,000円となり、前年度に比べ65万8,000円の減となるものでございます。

特別基金につきましては、13ページの下のところに表示をしております。昨年度の731万4円から150万取り崩して、正誤表に書いてございますように581万2,072円になるものでございます。

それから、田村賞基金につきましては、30万円取り崩します。限度額は225万余円ということになります。

以上で4号議案の説明を終わらせていただきます。

○議長（大原） ありがとうございます。

それでは、第3号議案及び第4号議案について審議していきたいと思っております。

何か、御意見等はございますか。

どうぞ。

○山内 気仙沼市から参加しております山内です。

事業計画案や新規予算案について特に異論を述べるものではありませんけれども、こういう機会ですので、一言御検討いただきたいということでお願いでございます。

皆様御承知のとおり、東日本大震災で東北地方から北関東はかなりひどい被害を受けたわけでありまして。そのほか、和歌山等では洪水で大変な被害を受けました。最近、非常に大規模な自然災害が多発している傾向にございます。そしてまた、2～3日前も東南海南海の3連動地震についてのとんでもない被害予測が出ました。

そういう中で、これからそういう大規模な災害に対する対応をどのようにしていくのかというのは、自治体にとっても非常に重要な問題ではないかと、実際に震災を経験して感じております。

したがって、どのようなかたちでそれを進めるか、ぜひ運営委員会の中で御検討いただいて、防災や、あるいは震災復興についても情報交換や学術的な研究など行う事業というものを検討していただければと思っております。発言した次第でございます。

○議長（大原） ありがとうございます。

今、提案がございましたのは、防災対策というか、災害復興について、部門を設けて研究したらどうかという御意見でございますが、執行部の方はどうでしょうか。

○進士代表 私の責任では言いかねますが、今回、これから運営委員が改選されますので、恐らく今の御発言の趣旨は十分理解できると思っておりますので、私自身は横浜とか川崎の審議会長として防災専門のをやっておりますが、多分、会員の中でもたくさんおられるはずですから、前向きに議論されると思っておりますので、私からはそのぐらいにさせていただきます。

○議長（大原） ほかに御意見等ございませんか。

どうぞ。

○松村 事業計画案について、意見というか、御報告とお礼です。

今年度の計画の中に、西尾勝先生の講座「まちづくりの思想と情熱を学ぶ」という企画がありまして、私、島根県の自治研修所の松村と申します。

当初、島根自治体学会として、この講座に手を挙げておりまして、ぜひ参加したいということなのですが、実際のところは自治体学会とは別に、島根自治研修所の研修事業としてさせていただきました。そのときは、中島興世代表運営委員の御理解もいただきまして、ぜひ今年度の3回の企画についても、本当にうまく行くようにお願いします。

島根県の方では、95名の職員も参加して、非常に熱心に議論して、その中では、自治体学会の***っています。ありがとうございました。

○議長（大原） ほかに御意見ございませんか。

ほかに御意見等もございませんようですので、第3号議案、第4号議案を一括してお諮りいたします。原案のとおり、御了承いただける方の拍手をお願いいたします。

（ 賛成者拍手 ）

○議長（大原） ありがとうございました。

多数と認められますので、原案どおり了承されました。

それでは、ここから議長を交代いたします。

○議長（松井） 続きまして、**第5号議案、役員改選の選挙**に入りたいと思います。

役員改選の手續、検討結果などにつきまして、役員改選に係る候補者名簿の作成業務を行った役員推薦委員会の佐藤滋委員長から御説明をお願いいたします。

○佐藤委員長 それでは、私、役員推薦委員会の委員長を務めました佐藤から御報告させていただきます。

資料の15ページ、16ページにある名簿が、今回、推薦委員会として皆様に推薦をする方々の名簿です。委員の皆様のご努力、それから事務局の支援、各地の学会員の皆様の協力を得て、自治体学会の運営を担っていただく強力なメンバーを選ぶことができたと思っております。

ここに掲げた方々からは、推薦をさせていただくということに対する内諾をいただいております。

それでは、このメンバーを選ぶに至った経緯について御説明をしたいと思います。

まず、2月12日に行われた運営委員会で、役員推薦委員会の設置が承認されまして、委員及び推薦委員会の任務と方針が決められました。これに基づき、3月2日に第1回の役員推薦委員会を開催しました。委員会では、委員長、委員長代理、スケジュールを決めるとともに、役員推薦に当たっての推薦方針を決めました。

また、会員全員に次期役員候補の公募、自薦と他薦の案内、それから現運営委員宛に自薦による候補としての考え、監事宛てについて、それぞれの内容を決めて、4月7日に公募内容の通知をいたしました。

公募については5月20日に締め切り、その結果、地域選出運営委員は、推薦がない地区が6地区あり、全国選出運営委員は5名いらっしゃいました。

この結果を踏まえて、6月17日に第2回推薦委員会を開催しまして、次期役員候補名簿作成に向けて、推薦委員会の委員の推薦を含めて対応をしました。その対応の考え方としては、在任期間を考慮すること、役員推薦委員会の委員は自ら推薦はしないこと、代表運営委員の現役員は、継続性の観点から推薦をするということにいたしました。

地域選出運営委員については、地区ごとに前役員を含め再調整を依頼いたしました。全国選出運営委員については、推薦委員会として推薦することもあると事前に通知をしていたことから、委員会として現委員で継続を依頼する委員及び新委員の公募を決め調整をいたしました。

その結果、地域選出運営委員は1名欠員で29名を次期委員候補として推薦することにし、退任は14名、新任は15名。全国選出運営委員は20名を次期役員候補といたしました。退任は11名、新任が9名。また、監事は退任1名、新任1名を次期候補者といたします。

いずれも、委員の方々、ごらんいただいた15ページ、16ページに示してございます。

どうぞよろしく御審議をお願いいたします。以上です。

○議長（松井） ありがとうございます。

この点につきまして、御質問などはございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

御質問がないようでしたら、役員候補者名簿のとおり、新規役員を選出してよろしいでしょうか。議案のとおりご承諾いただける方は、拍手をお願いいたします。

（賛成者拍手）

○議長（松井） 多数と認められますので、原案どおり承認されました。

それでは、本日御出席の新運営委員の皆様は、その場で御起立をお願いいたします。

（新運営委員起立）

○議長（松井） 今後2年間の学会の活性化、発展等に御尽力いただきますので、よろしくをお願いいたします。（拍手）

ただいま新しい運営委員が選出されましたが、自治体学会規約第8条第2項によりまして、別室にて運営委員の互選で代表運営委員を決めることとなっております。

少し休憩の時間をいただきたいと思います。そのまましばらくお待ちください。

（一時休会 代表運営委員互選）

○議長（松井） それでは、総会を再開いたします。

佐藤委員長から、互選の結果の報告をお願いいたします。

○佐藤委員長 それでは、ただいま新しい運営委員の間で互選がされました。私は、役員推薦委員会の委員長として、進行を務めさせていただきましたので御報告させていただきます。

新しい名簿の全国選出運営委員 20 名の中から 3 名の方が選ばれました。これは、ここから選ぶということではなくて、全体の中で選ばれました。たまたま連番になっておりまして、35 番の中島興世さん、36 番に名前が挙がっている西村幸夫さん、37 番に名前が挙がっている廣瀬克哉さん、この 3 名を代表運営委員とすることに、今、新しい運営委員会で決定したことを御報告いたします。(拍手)

○議長(松井) ありがとうございます。

それでは、新しい運営委員の三方は、代表運営委員席の後ろにお立ちください。

ごあいさつをお願いいたします。

○廣瀬代表 それでは、新しく選ばれましたということで、3 名を代表して廣瀬からごあいさつさせていただきます。

これまで、私自身は企画部会長として大会企画等に携わってまいりましたけれども、このたび、先ほどの運営委員会におきまして、代表の 1 人として互選をされました。大変重大な責任を負うということになりましたけれども、先ほど報告にもありましたけれども、長期にわたりまして会員が減少傾向にあった中、ようやく若干それが逆転するという動きが出てきたところでありますので、やはり 26 回目の大会になり、世代交代、やはり若い会員の皆様に積極的に参加をしていただける学会づくりということに向けての努力は、これからさらに継続して必要な時期を迎えていると思います。

皆さんの御協力を得まして、新しい自治体学会の展開に向けて努力をしてまいりたいと思いますので、どうぞ御協力のほどよろしくをお願いいたします。(拍手)

○議長(松井) ありがとうございます。

続いて、通常でしたら部会長の指名ですが、先ほど運営委員会からの報告がありました。

○廣瀬代表 昨日の運営委員会からの申し送りもございましたし、本日、新任で選ばれました西村幸夫さんが、学会賞の表彰式には間に合うようにこちらに向かっておられるところではありますが、この場にいらしゃいませないので、代表運営委員 3 名でしっかりと審議をした上で、後日指名結果については会員の皆様にお知らせをしたいと思っておりますので、御了承いただければと思います。

○議長(松井) ありがとうございます。

続きまして、監事の方が 1 名新しくなっておりますので御紹介いたします。資料 16 ページにありますけれども、新しく岸本幸子様を監事を務めていただくことになりましたので御紹介いたします。(拍手)

ありがとうございます。役員任期は 2 年ですので、2014 年度の総会までよろしくをお願いいたします。

議事を続けます。報告事項について、事務局からお願いいたします。

○事務局 1 の来年の大会開催地につきまして、開催地は静岡県で、市は未定となっておりますが、静岡市に決定をいたしましたので、来年は静岡市で開催をいたします。開催日については、現在調整中でございますので、後ほどお知らせすることになると思います。

2の会員の状況について、そこに記載されましたとおり、今年度の現在までの入会者数が52名ということで、昨年度1年間の入会者の77名と比べましても、相当数会員の増加がありまして、大変うれしく思っております。今までの会員減少が下げ止まったのかという感じでございます。

そこにございますとおり、会員数はこのようなかたちで推移しているということを御報告しております。

以上でございます。

○議長（松井） ありがとうございます。

そのほか、皆様の方から何かございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

特にないようでしたら、これで予定されていた案件はすべて終了いたしましたので、以上をもちまして、私どもの議長の役目を終わらせていただきます。

皆様の御協力に対して、お礼申し上げます。ありがとうございます。（拍手）

○司会 以上をもちまして、総会を終了させていただきます。

長時間にわたり、御審議ありがとうございました。

10時から分科会が始まりますので、それぞれの会場にお急ぎいただくようお願いいたします。

ありがとうございました。

—了—

（文責：自治体学会事務局）